

**地方独立行政法人福岡市立病院機構
平成27年度の業務実績に関する評価結果報告書**

平成28年8月

地方独立行政法人福岡市立病院機構評価委員会

目 次

はじめに	1
第1項 全体評価	2
第2項 項目別評価	4
（1）大項目評価	
第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	4
第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	7
第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	8
第4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置	9
（2）小項目評価	
福岡市立病院機構の概要	13
全体的な状況	15
項目別の状況	22
第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	
1 医療サービス	22
2 患者サービス	42
3 医療の質の向上	50
第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	
1 自律性・機動性の高い運営管理体制の充実	68
2 事務部門等の専門性の向上	70
3 意欲を引き出す人事・給与制度等の導入	72
第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	
1 経営基盤の強化	74
2 収支改善	78
第4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置	
1 新病院の整備及び運営に関する取組	92
2 福岡市民病院の経営改善の推進	94
第5 予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画	96
第6 短期借入金の限度額	99
第7 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画	99
第8 剰余金の使途	99
第9 地方独立行政法人福岡市立病院機構の業務運営等に関する規則で定める業務運営に関する事項	100

※ 中期計画においては、第1から第4までの小項目評価の項目は、それぞれ第2から第5となる。

〈参考資料〉

○地方独立行政法人福岡市立病院機構 業務実績評価の方針	101
○地方独立行政法人福岡市立病院機構 年度業務実績評価実施要領	103

はじめに

地方独立行政法人福岡市立病院機構評価委員会は、地方独立行政法人法第28条の規定に基づき、地方独立行政法人福岡市立病院機構の平成27年度における業務実績の全体について総合的に評価を実施した。

評価に際しては、本評価委員会において、平成22年11月10日に決定した「地方独立行政法人福岡市立病院機構業務実績評価の方針」(101ページ参照)及び「地方独立行政法人福岡市立病院機構年度業務実績評価実施要領」(103ページ参照)に基づき評価を行った。

地方独立行政法人福岡市立病院機構評価委員会 委員名簿

	氏 名	職 名
委員 長	寺 坂 禮 治	福岡市医師会 副会長
副委員 長	松 田 晋 哉	産業医科大学医学部公衆衛生学教室 教授
委 員	佐 田 正 之	医療法人佐田厚生会佐田病院 理事長
	花 岡 夏 子	福岡県看護協会 会長
	行 正 晴 實	公認会計士

第1項 全体評価

評価結果及び判断理由

〈評価結果〉

第2期中期目標期間の3年目である平成27年度の業務実績に関する評価については、すべての小項目評価が「評価3」以上であることから、第1から第4の大項目評価はすべて「評価A」となる。

この大項目評価の結果を踏まえ、福岡市の医療施策として求められる高度専門医療・高度救急医療を提供するための取組みや、積極的な増収対策と費用削減による当期純利益の確保などから、平成27年度の業務実績は「中期計画の実現に向けて計画どおり進んでいる」と評価する。

〈判断理由〉

福岡市から独立した法人として、理事長を中心に、両病院と運営本部が一体となった経営体制を構築し、経営管理の徹底を図っている。

福岡市立こども病院においては、小児総合医療施設として、これまで培ってきた小児医療（高度・地域・救急）及び周産期医療の更なる充実を図るとともに、各診療部門の早期本格稼働に取り組んでいる。また、福岡市民病院においては、地域医療計画における4疾病（がん、脳卒中、急性心筋梗塞及び糖尿病）への対応を中心に高度専門医療の更なる充実を図るとともに、救急部門の体制強化に積極的に取り組んでいる。

その結果、両病院とも、病床利用率、1日あたり入院患者数、外来単価などにおいて前年度実績を上回り、手術件数、逆紹介率など複数の目標値を達成している。

経営収支面では、人員の適正配置や救急患者の受入体制整備などによる増収対策に加え、コストパフォーマンスを考慮した診療材料等の選定や価格交渉の徹底などによる費用削減に取り組んだ結果、市立病院機構全体で6,200万円余の当期純利益を確保するとともに、両病院とも、経常収支比率、医業収支比率などにおいて目標値を達成している。

項目	評価項目数	ウェイトを考慮した項目数	小項目評価					大項目評価
			評価5	評価4	評価3	評価2	評価1	
第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	14	24		20	4			A 計画どおり進んでいる
第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	3	3			3			A 計画どおり進んでいる
第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	6	11		2	9			A 計画どおり進んでいる
第4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置	2	4		4				A 計画どおり進んでいる
合計	25	42		26	16			

全体評価にあたって考慮した内容

〈主な取り組みや特色ある取り組み〉

福岡市立こども病院においては、小児高度専門医療の更なる充実に向けて、脳神経外科、皮膚科、小児歯科及びアレルギー・呼吸器科を新設するとともに、川崎病センター及びてんかんセンターを設立し診療体制の強化を図っている。また、国家戦略特別区域法に基づく病床規制の特例を活用し、双胎間輸血症候群におけるFLP治療及びその周産期管理のための病床6床を産科病棟に増床するなど、医療機能の強化を図っている。

福岡市民病院においては、医療法で定められた医療計画における4疾病への対応を中心に、循環器内科医を2人増員し循環器救急搬送患者の受入拡充を図っているほか、新たに感染症専門医を2人配置するとともに、「感染・災害対策マニュアル」を策定するなど感染症医療体制の整備を進めている。

また、両病院ともに地域医療支援病院としての役割を更に高めるため、開放型病床への登録医の拡大やオープンカンファレンスの開催などを通じて、地域の医療機関を中心に積極的な病病連携・病診連携に努めている。

さらに、災害発生に備え、両病院ともに医療機能を維持するための必要物品の備蓄や医療用設備の整備を適切に行うとともに、県外の自治体病院等との広域的な災害派遣協定等に基づき、医療班の組織や衛星電話、その他必要な応急物資を整備するなど、災害発生時における相互応援体制を強化している。

〈特筆すべき取り組み〉

福岡市立こども病院においては、患者の受入調整等を行ったことで、年度当初は収入が減少したものの、7月以降、手術体制の見直しなど本格稼働に向けた取り組みを推進するとともに、救急患者受入体制を強化するなど増収を図ったことで、例年以上の医業収益を確保した。

福岡市民病院においても、高度医療の更なる充実や効率的な病床管理等に努めるとともに、難易度や専門性の高い手術、カテーテル治療及び検査件数が増加し、例年以上の医業収益を確保した。

また、両病院ともに外部コンサルタントを活用した診療材料等の調達に係る価格交渉の徹底、ジェネリック医薬品の使用拡大などに取り組み、着実に費用の削減を進めてきた。

上記のとおり両病院ともに中期計画に基づく経営の効率化や健全化に取り組み、市立病院機構全体では6,200万円余の当期純利益を確保するなど、経営改善が順調に進んでいる。

評価にあたっての意見、指摘等

〈両病院〉

- ・新人看護師の離職率は、全国平均より高い福岡県と比べて両病院ともに低く、頑張っている。
- ・今後、電力契約などの相手方の選定方法を見直してみてもどうか。

〈福岡市立こども病院〉

- ・こども病院は、県内外からの患者が多いため、逆紹介は難しく実績は妥当と思われる。
- ・小児病院はそれぞれに特性があり、ベンチマーキングは難しい。
- ・新病院開院後の変動期にもよく職員をまとめて対応している。

〈福岡市民病院〉

- ・市民病院は、何度もメディカルラリーで優勝しており、職員が生き生きしている印象である。
- ・市民病院では、なかなか作りづらい認定看護師等資格取得支援制度のようなスキームを整備していることを、評価したい。
- ・市民病院の専門医師数増のような努力が黒字を生んでいるのだと思う。

第2項 項目別評価

(1)大項目評価

第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

評価結果 A (計画どおり進んでいる)

評価結果

「良質な医療の実践」「地域医療への貢献と医療連携の推進」「患者サービスの向上」「病院スタッフの確保と教育・研修」「信頼される医療の実践」の項目において、年度計画の目標を上回る成果を上げているほか、全ての項目で年度計画どおり順調に実施している。

評価結果	S	A	B	C	D
	特筆すべき進捗状況にある	計画どおり進んでいる	おおむね計画どおり進んでいる	やや遅れている	重大な改善すべき事項がある

※ 評価A=小項目において全ての項目の評価が3~5

小項目評価の集計結果(評価した項目数)

項目	評価項目数	ウエイトを考慮した項目数	小項目評価				
			評価5	評価4	評価3	評価2	評価1
1 医療サービス	5	9		8	1		
2 患者サービス	4	6		4	2		
3 医療の質の向上	5	9		8	1		
合計	14	24		20	4		

評価判断理由

①特筆すべき小項目評価

「1-(1) 良質な医療の実践 イ 福岡市立こども病院」

集学的・包括的な診療のため、新たに川崎病センターやてんかんセンターを設置するなど診療体制の強化を図ったほか、国家戦略特区を活用した産科病床の6床増床、救急受入体制の強化による救急搬送件数の大幅増など、新病院の移転開院直後にも関わらず、年度計画を上回って実施している項目を積極的に評価し、「評価4」とした。

「1-(1) 良質な医療の実践 ウ 福岡市民病院」

循環器内科医を2人、感染症専門医を2人、血管外科医を1人増員するなど診療機能の充実・強化に取り組むとともに、循環器救急搬送患者の受入拡充を図ったことにより、循環器領域で手術件数やカテーテル治療等が増加するとともに、脳卒中領域でも手術件数が増加するなど、年度計画を上回って実施している項目を積極的に評価し、「評価4」とした。

「1-(2) 地域医療への貢献と医療連携の推進 ア 福岡市立こども病院」

紹介率とオープンカンファレンスの回数がやや目標値を下回っているものの、その他の指標については、確実に目標値を達成していること、また、周産期センターの人員体制強化や年間1,000件以上の救急搬送患者受入、粕屋医師会との連携強化など、新病院開院後の変動期にありながら、地域の医療機関との連携強化に努めていることなどから総合的に勘案し、年度計画を上回って実施していると判断されることから、「評価4」とした。

「1-(2) 地域医療への貢献と医療連携の推進 イ 福岡市民病院」

紹介率、逆紹介率などすべての指標で実績が目標値を上回っていることから、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とした。

「2-(1) 患者サービスの向上 ア 福岡市立こども病院」

小児在宅医療推進ワーキンググループを立ち上げ、きめ細やかな患者支援を行ったほか、患者や病院施設利用の意見を踏まえ、駐車場料金の見直しや売店・レストランの利便性向上を図り、また、ふくおかハウスの運営に対する協力や外国人患者が円滑に受診できるような医療提供体制が整備されていることから、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とした。

「2-(1) 患者サービスの向上 イ 福岡市民病院」

会計窓口の拡張や待合スペースの拡充など外来患者の利便性に努めたほか、入院ベッドの更新など療養環境の整備を行った結果、患者満足度調査における平均評価点数が目標値を上回ったことから、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とした。

「3-(1) 病院スタッフの確保と教育・研修 ア 福岡市立こども病院」

新病院の本格稼働に向け、医師や看護師等を大幅に増員するとともに、院内研修について外部講師の活用などによる内容充実を図ったほか、全職員向けの医療英語研修会や小児科専門医を目指す全研修医向けのランチゼミの開催など、様々な視点から教育・研修制度の充実を図っていることから、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とした。

「3-(1) 病院スタッフの確保と教育・研修 イ 福岡市民病院」

医師や看護師等を増員するとともに、ワーク・ライフ・バランス推進プロジェクトの取組等により引き続き職員が働きやすい職場環境づくりを推進し看護職員離職率が低下(26年度10.5%→27年度7.7%)したほか、新たに創設した専門看護師の資格取得支援制度において1人が受講を開始するなど、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とした。

「3-(2) 信頼される医療の実践 ア 福岡市立こども病院」

院内死亡・死産事例検討会を設置するなど医療安全対策の充実を図るとともに、管理栄養士など他職種による「食育・歯育・保育」の取組を開始したほか、医療の質向上のため全国のこども病院と連携して「臨床指標」を策定したこと、さらに、薬剤管理指導件数及び栄養食事指導・相談件数いずれも目標値を上回っていることから、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とした。

「3-(2) 信頼される医療の実践 イ 福岡市民病院」

RRS等の新たな手法を用い医療安全対策の徹底を図ったほか、クリニカルパス適応率の向上、すべての病棟への薬剤師配置を行ったことに加え、薬剤管理指導件数及び栄養食事指導・相談件数のいずれも目標値を上回っていることから、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とした。

②その他考慮すべき事項

特になし。

評価にあたっての意見、指摘等

- ・新人看護師の離職率は福岡県が全国平均より高いが、両病院はともに低く、頑張っている。
- ・こども病院は、県内外からの患者が多いため、逆紹介は難しく実績は妥当と思われる。
- ・小児病院はそれぞれに特性があり、ベンチマーキングは難しい。
- ・新病院開院後の変動期にもよく職員をまとめて対応している。
- ・市民病院は、何度もメディカルラリーで優勝しており、職員が生き生きしている印象である。
- ・市民病院では、なかなか作りづらい認定看護師等資格取得支援制度のようなスキームを整備していることを、評価したい。

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

評価結果 A (計画どおり進んでいる)

評価結果

理事会の決定方針に沿った運営を行うとともに、両病院とも院長のリーダーシップの下、機動性の高い病院経営を行っており、年度計画を順調に実施している。

評価結果	S 特筆すべき進捗 状況にある	A 計画どおり進ん でいる	B おおむね計画ど おり進んでいる	C やや遅れている	D 重大な改善すべ き事項がある
------	-----------------------	---------------------	-------------------------	--------------	------------------------

※ 評価A=小項目において全ての項目の評価が3~5

小項目評価の集計結果(評価した項目数)

項 目	評価 項目数	ウエイト を考慮 した 項目数	小項目評価				
			評価 5	評価 4	評価 3	評価 2	評価 1
1 自立性・機動性の高い運営管理体制 の充実	1	1			1		
2 事務部門等の専門性の向上	1	1			1		
3 意欲を引き出す人事・給与制度等 の導入	1	1			1		
合 計	3	3			3		

評価判断理由

①特筆すべき小項目評価 特になし。
②その他考慮すべき事項 特になし。

評価にあたっての意見, 指摘等

特になし。

第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置

評価結果 A (計画どおり進んでいる)

評価結果

様々な増収対策や費用削減に取り組んだ結果、市立病院機構全体で当期純利益を確保しており、年度計画を順調に実施している。

評価結果	S 特筆すべき進捗 状況にある	A 計画どおり進ん でいる	B おおむね計画ど おり進んでいる	C やや遅れている	D 重大な改善すべ き事項がある
------	-----------------------	---------------------	-------------------------	--------------	------------------------

※ 評価A=小項目において全ての項目の評価が3~5

小項目評価の集計結果(評価した項目数)

項 目	評価 項目数	ウエイト を考慮 した 項目数	小項目評価				
			評価 5	評価 4	評価 3	評価 2	評価 1
1 経営基盤の強化	2	3			3		
2 収支改善	4	8		2	6		
合 計	6	11		2	9		

評価判断理由

① 特筆すべき小項目評価

「2-(1) 増収 イ 福岡市民病院」

1日当たりの入院・外来単価や手術件数等の増加等により、医業収益は前年度実績を大きく上回っていることから、経常収支比率や医業収支比率等の年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とした。

②その他考慮すべき事項

特になし。

評価にあたっての意見、指摘等

・今後、電力契約などの相手方の選定方法を見直してみてもどうか。

第4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置

評価結果 A (計画どおり進んでいる)

評価結果

福岡市立こども病院においては、国家戦略特区の特例を活用した増床など医療機能の充実を図っており、福岡市民病院においては、医業収益の向上により当期純利益を確保するなど、年度計画を上回って実施している。

	S	A	B	C	D
評価結果	特筆すべき進捗状況にある	計画どおり進んでいる	おおむね計画どおり進んでいる	やや遅れている	重大な改善すべき事項がある

※ 評価A=小項目において全ての項目の評価が3~5

小項目評価の集計結果(評価した項目数)

項目	評価項目数	ウェイトを考慮した項目数	小項目評価				
			評価5	評価4	評価3	評価2	評価1
1 新病院の整備及び運営に関する取組	1	2		2			
2 福岡市民病院の経営改善の取組	1	2		2			
合計	2	4		4			

評価判断理由

①特筆すべき小項目評価

「1 新病院の整備及び運営に関する取組」

市民に親しまれる病院づくりを推進するため積極的に情報発信を行ったこと、また、必要な医師及び看護師等を増員するとともに、新人教育等を徹底し、一般病棟については本格稼働に移行し、GCU等についても稼働病床数が拡大したほか、国家戦略特区を活用し産科病床を6床増床したことから、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とした。

「2 福岡市民病院の経営改善の推進」

医業収益は大幅に増加し、医業収支比率は目標値を上回ったことから、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とした。

②その他考慮すべき事項

特になし。

評価にあたっての意見、指摘等

- ・新病院開院後の変動期にもよく職員をまとめて対応している。
- ・市民病院の専門医師数増のような努力が黒字を生んでいるのだと思う。

(2)小項目評価 別紙のとおり